



今年の主役、全力疾走

# 更生保護 は な び

第 22 号

発行者

大曲地区保護司会

事務所

大仙市神宮寺字蓮沼16-3

大曲地区更生保護

サポートセンター内

TEL 0187 (88) 8425

印刷 (株)秋田精巧堂

## 年頭に当たって

大曲地区保護司会

会長 藤原正吾

明けましておめでとうございます。

新春の到来を、会員そして関係者の皆様とともに喜び申し上げますとともに、依然燃り続ける新型コロナウイルス禍と、新たな脅威となつて久しい熊による被害が無いことを心から念じております。

昨年後半は私共にとつて嬉しい事が二つありました。一つは、秋の叙勲において、山谷尚門保護司が「瑞宝双光章」受章の栄に浴されたことで、保護司として三十七年間の長きにわたる活動をご苦労するとともに、心からお慶び申し上げます。

もう一つは、第七十五回社会を明るくする運動の一環としての作文コンテストにおいて、大曲小学校六年生の増田大和君の作文が県の優秀作品の一つに選ばれ、十一月二十一日の県更生保護大会において、小学生の部を代表して発表したこと、十二月十二日に、増田君の作品が全国入賞の「日本BBS連盟会長賞」受賞に輝いたことで、当保護司会エリア作品初の快挙を心から喜んでおります。

さて、保護司制度の持続可能性に焦点を当てた改正保護法が十二月三日、参議院本会議で可決されるとともに同十日に公布され、一年以内に施行されることとなりました。一期二年の保護司の任期を三年に延長するとともに、一昨年大津市の男性保護司が自宅で殺害された事件を受け、安全環境の整備を国の責務とするなど、刑務所出所者の立ち直りを支える保護司の安全対策や、担い手確保等が随所に盛り込まれたもので、私共はかような動きを重く受け止め、より緊張感を持って保護司活動に精励しなければならぬものと、意を新たにしているところ

であります。

また、子供の数が減少している中で、不登校の子供の数が割合ではなく実数で増加している現状も気になるところで、社会状況も注視しながら保護司の使命を再確認し、所要活動の取組に努めたいと考えております。

秋田保護観察所始め大仙市、美郷町及び関係機関・団体各位には、本年も引き続きご指導ご交誼賜りますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつと致します。

## 令和七年度 大曲地区保護司会関係 受彰者

- 瑞宝双光章 山谷 尚 円
- 法務大臣表彰 佐々木 正
- 全国保護司連盟会長表彰 高橋 京 子
- 照井 栄 子 (進・家族表彰)
- 東北地方更生保護委員会委員長表彰 高橋 正 伸
- 東北地方保護司連盟会長表彰 佐藤 政 利・高橋 茂 則
- 高橋 有 蔵 (町子・家族表彰)
- 秋田保護観察所長表彰 高橋 龍 彦・三浦 龍 市
- 草 薙 喜 勝・伊 藤 義 之
- 伊 藤 啓 資・尾 形 憲 一
- 佐 川 浩 資
- 秋田県保護司会連合会長表彰 大 沢 和 浩・佐々木 文 隆
- 小 松 正 幸・逸 見 博 幸
- 高橋 久 也
- 小 松 千 寿 子 (勇人・家族表彰)
- 小 松 瑠 美 子 (春一・家族表彰)
- 秋田県知事感謝状 細 井 盛 一・佐藤 力 哉
- 加 藤 真



## 第五十八回秋田県更生保護大会開催される

令和七年十一月二十一日、あきた芸術劇場ミルハスにおいて、県内の更生保護関係者約八百名の参加のもと、秋田県更生保護大会が盛大に開催されました。

大会は、開会後、第七十五回「社会を明るくする運動」作文コンテスト優秀作品の発表と表彰がありました。今回は大曲小学校六年生増田大和さんの作文が秋田県の小学校の部で優秀作品に選ばれ代表して発表しました。当保護司会としても非常にうれしいことであります。続く講演では、一般社団法人市民活動あきた代表理事専門脇光浩氏から「新説・秋田の昔話」と題し、ご講演をいただきました。昔からの言い伝えのある話を題材にし、主にカッパについての自身の体験談や周りから聞いた話を元にもいかにも現実にかっぱが存在するようにユーモアあふれる講義で、最後まで楽しく聞き入っていました。

その後の式典では、金山智紀秋田県保護司会連合会長の式辞、富田潤一秋田保護観察所長の挨拶のあと、功績のあった保護司や更生保護女性会員、民間協力者の方々に対して法務大臣や全国保護司連盟理事長、秋田県知事等から表彰状や感謝状が贈呈されました。



金山智紀会長式辞

また来賓祝辞の後、秋田県BBS連盟副会長内山直



法務大臣表彰  
佐々木正氏

## 第三期地域別定例研修会開催される

令和七年十二月十一日、大曲プラザたつみにおいて会員四十六名が出席し、定例研修会が開催されました。



藤原会長のあいさつ

研修に先立ち、十二月一日付けで新たに保護司となった会員の紹介があり、続いて藤原会長からのあいさつの後、研修に入りました。

研修は、佐藤力哉研修部長の「研修のねらい」の朗読に続き、藤原佑史保護観察官から「転居・旅行の手続き」と題し講義がありました。保護観察から離脱して所在不明になった対象者は再犯・再非行に陥りやすい傾向にあるため、対象者の居場所を的確に把握し、所在不明等で保護観察が実施できない空白状況を極力作らないようにする必要があります。今回の研修では「転居・旅行の手続き」に関する基本を学び、事例検討を通じて対象者への適切な指導を再確認するとともに

光氏による大会宣言が採択されました。今大会では当保護司会・更生保護女性会から多くの受賞者があり、沢山の会員が参加しました。



代表受領の三浦龍市氏

に、保護観察の空白や所在不明の防止に對する意識を高め、より適切で確実な保護観察を実施することを目的としています。

講義では冒頭に、対象者を地域全体で支援していくことをねらいとして、先月大仙市でも地域援助会議を開催し、関係機関との情報共有を図りましたが、保護観察が終わった対象者を地域で支援することは、社会の責務であることや、監禁王子事件のような転居・旅行の手続きの不手際で発生した同じような事件を二度と起こしてはならないという意図が本研修のねらいとして述べられました。

転居・旅行を許可するまでの手続きには、転居・旅行の許可基準があり、主任官又は保護司がこれらの転居又は旅行の許可を判断するために必要な事項を調査すること、また、転居後の住居又は旅行先の調査をあらかじめ行い、その結果を踏まえた上で転居又は旅行の可否を判断する



藤原保護観察官による講義

ことや、転居・旅行を許可してからの手続きとして、転居を事前に許可した場合の措置や、旅行中における保護観察の補助についても触れ、引越しいコール保護観察が終了したのではないことに注意すること、さらに留意事項として、切迫している状況下では保護観察所へ速やかに連絡を入れることなど、五点について話がありました。

その後、四グループに分かれて三十分ほど熱心に事例検討が行われ、転居や旅行の手続きを適切に行い、保護観察に空白が生じないように努めていくことを確認し合いました。



グループ討議風景

最後に、藤原保護観察官から今回の定例研修では、転居・旅行の手続きについて事前であれ、事後であれ、調査が必要であることを踏まえ、転居や旅行までには相応の時間が要するので、日頃から対象者の動向に注意を払い、転居・旅行の際には十分な時間的余裕をもって申請するように指導しておく事の重要性について述べられました。研修に出席した保護司は、保護観察の大事な手続きについて研修することができ、今後のより適切で確実な保護観察を実施する上で、役立つ研修となりました。

令和七年度

「社会を明るくする運動」作文コンテスト

祝 増田大和さん全国入賞



大仙市立大曲小学校六年  
増田大和さん

「優しさのバトン」

毎年小中学校を対象に、県社会を明るくする運動で募集している作文コンテストに、本年度、大仙市と美郷町の学校からは、小学生二十点十校、中学生六点（四校）の応募がありました。県審査の結果、大曲小学校六年 増田大和さんの作品が県の優秀作品に選ばれ、とともに全国入賞の日本 BBS 連盟会長賞を受賞いたしました。この作品は十一月二十一日のあきた芸術劇場ミルハスで行われた秋田県更生保護大会で小学生の部で本人の朗読で発表されました。また当保護司会からは、小学生八名、中学生六名の方々の作品に優秀賞が授与されました。皆さんおめでとうございます。今回は、増田大和さんの作品を紙面で紹介いたします。

僕には、小さい頃大好きだったおもちゃがある。それは、木でできた犬で、ひもで引つ張ることができる。僕と二つ違いの姉は、そのおもちゃを使って、犬のお散歩ごっこをしたものだった。すべすべしていて、かわいらしい顔をしていて、本当にお気に入りだった。そのおもちゃは、祖母からのプレゼントだ。それもあるのだが、悪いことをした人が近くにたくさんいると思うと怖いし、心配だった。おもちゃは、その刑務所の作業製品展示場で買ったものだ。祖母から聞いたとき、僕は衝撃を受けた。悪いことをし

た人があんなにかわいい犬のおもちゃを作れるなんて。そもそも僕は、刑務所の中で何か作業をしているのは知っていたが、おもちゃまで作っているなんて知らなかった。調べてみると、各地の刑務所ではおもちゃ以外にも家具や文具、アウトドア用品や食品まで作られていた。今は刑務所作業製品は、より広く親しめるイメージに変えるとともに、安くて品質のよい商品を広めるために、CAPIIC と呼ばれているらしい。売り上げの一部は、犯罪被害者の支援団体の活動に使われている。刑務所の中にいる人は、あんなにかわいい犬のおもちゃをどういう気持ちで作ったのだろう。罪を犯してしまった人でもあんなにかわいいおもちゃを作れる優しい気持ちがあるのか。逆にかわいいおもちゃを作れる優しい気持ちがあるのになぜ犯罪を犯してしまうのか。それは悪い気持ちが優しい気持ちを上回ってしまうからだと思う。相手を思う気持ちや余裕がなければ、人は自分がしていることがどれだけ人を傷つけるか、なかなか気付くことができない。そして、自分の欲望を優先させてしまう。それが犯罪につながってしまうこともあるのではないか。相手のことを考えずに、気に入らないから、おもしろいからと自分の気持ちを優先するという点で、いじめもおなじだ。いじめの問題が起これば、いじめられた側に対しては、カウンセリングや相談など手助けがされる。深く傷ついてしまうのだからそれは当然だ。しかし、本当は、いじめの側こそ、助けが必要なかもしれない。僕は、意地悪なことを言ってしまったら、ふざけてしまったらすることはあるけど、悪かったなと思ったら、すぐに謝る。テレビやニュースで見るとなかなひどいじめをしようにとは考えたこともない。多分それは、僕の中の優しい気持ちの方が欲望よりも

大きくて、悪い気持ちをコントロールできるからだ。満たされていけば、他の人にひどいことをしようとは思わない。そうだとすれば、相手を傷つけずにはいられないほど、優しい気持ちが足りなくなってしまうているいじめの側こそ、手厚く支援されなければならないのではないか。同じことは、犯罪を犯してしまう人にも言えると思う。

僕が大好きな犬のおもちゃから感じたあたかさは、作った人の心の中の優しい部分が表れたものではないかと思う。それは、誰の心の中にもあって、その部分を大切にしていれば、きつと悪いことをしようとは思えない。僕は、両親から「大和は、小さい子にとってもやさしくできるよね。」とよく言われる。それは、小さい子は守ってあげなくては、と思うからだ。そういう気持ちになれるのは、きつと僕自身が周りの人たちのたくさんの愛情に包まれて育ってきたからだろう。そうしているうちに僕の心の優しい部分がどんどん大きくなって、他の人にも分けてあげられるようになったのだと思う。僕が世の中の全ての人に優しさを分けてあげることができない。でも、社会全体で、みんなが少しずつ、周りの人たちに優しい気持ちを届けてあげれば、罪を犯してしまうまで追いつめられる人は減るような気がする。おたがいにもんくあいきつする。困っている人に声をかけたり、手助けしたりする。そんなみんなの優しい気持ちが社会をあたかかく照らす光になるのだ。僕も、自分のあたたかい言葉かけや少しの手助けが、誰かの沈んだ心を軽くすることを信じて、優しさのバトンをつないでいきたい。

入賞者一覧

日本 BBS 連盟会長賞（優秀賞）  
秋田県推進委員会優秀賞

「優しさのバトン」

大仙市立大曲小学校六年

増田大和さん

大仙美郷推進委員会優秀賞

小学校

「相手の色とわたしの色」

美郷町立千畑小学校六年

杉澤梨花

「犯罪の原因と周りからの理解」

美郷町立仙南小学校六年

黒川煌人

「社会が明るくなる道しるべとは」

大仙市立高梨小学校六年

竹内心花

「今よりも明るい社会にするために」

大仙市立大曲小学校六年

石村彩

「自分の未来と相手の未来」

大仙市立大曲小学校六年

伊藤心美

「あつたかさんを見つけて明るい社会へ」

大仙市立協和小学校六年

武藤咲

「増やそう「ステキな言葉」」

大仙市立高梨小学校六年

後藤陽奈

中学校

「不自由のない社会のために」

大仙市立協和中学校一年

進藤心空

「大丈夫」が教えてくれたもの」

大仙市立平和中学校二年

今野駈

「無知や偏見による差別を減らしたい」

大仙市立協和中学校二年

進藤虹心

「立ち直りをみんなで考える明るい社会へ」

大仙市立太田中学校一年

草薙未来

「ありがとう」の五文字の力」

大仙市立仙北中学校二年

小松利玖

「社会に笑顔を増やすために」

大仙市立協和中学校二年

辻那々美



## SST自主研修が 開催される

令和七年十月二十六日、大仙市四ツ屋公民館において、ふくしま心のケアセンター所長の片柳光昭先生他二名の講師を招き、会員二十二名が出席し開催されました。



SST自主研修風景

研修は「面接の基本」と「SSTの基本」の二本立てのテーマで行われ、はじめに「面接の基本」について片柳先生よりご講義をいただきました。対象者が身構えることなく安心できる面接に欠かせない要素を説明していただき、褒めることの重要性と、その効果の意味を踏まえ、対象者を理解して、それに合わせて働きかけることや、面接のルール等を伝えていくこと、このようなスキルは、日常の人間関係の構築にも役立つことを習得しました。

研修の後半は「SSTの基本」について片柳先生よりご講話をいただいた後、グループ毎に一人が話し手となり、「最近自分に起こった良かったこと」を話し、聞き手が話し手の良かったところを探し、伝えるという相手を観察し、褒める演習を行いました。最後の演習では、事例をもとに、グループ毎に幼児期から現在までの対象者の情報を整理し、いろいろな角度から対象者の理解を深めていき、これらの情報をもとに対象者をどのように褒めるかをグループ毎に話し合った後、各グループの代表者が全体会で発

表しました。

参加者からは、対象者への言葉掛けの仕方や、辛い体験をしたり、怒りに満ち溢れたりしている対象者の心を癒す言葉掛けなど、数多く学ぶことができました。是非次の研修をお願いしたいとの声を多くいただくなど盛会裏に終了しました。

## 当保護司会から至仁会へ お米を届けました

令和七年十月六日、大沢事務局長が秋田市の至仁会を訪れ、新米三十kgの大仙市米を届けました。



今回で五回目の贈呈で、入所者の一日も早い社会復帰を念じての帰路となりました。

## 受彰祝賀会、退任保護 司慰労会、新任保護司 歓迎会を開催

令和七年十二月十一日、大曲プラザたつみに、おいてこ来賓、会員が出席し、受彰祝賀会並びに退任保護司慰労会、新任保護司歓迎会が開催されました。



会員による余興

藤原会長のあいさつに続き、秋田保護観察所長の富田潤一様と県保護司連合会長の金山智紀様からご祝辞をいただきました。その後、

受彰者を代表して山谷尚円様からあいさつをいただきました。

鳴津副会長の乾杯の発声後、参加者が一年間の活動を振り返りながら歓談するとともに、会員からのお祝いの余興もあり、盛会裏のうちに終了しました。

## 祝 叙 勲

令和七年秋の叙勲で山谷尚円氏が更生保護功勞により瑞宝双光章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。



山谷 尚 円 氏

## 瑞宝双光章受章

## 新任保護司紹介

令和七年十二月一日付



小田原 一 春 氏  
(大仙市神宮寺)



高 橋 永 氏  
(大仙市太田町)



藤 原 鈴 司 氏  
(大仙市太田町)



高 橋 三 智 子 氏  
(大仙市太田町)



熊 谷 ゆ み 子 氏  
(美郷町土崎)

これからよろしくお願いいたします。

## 退任保護司の皆様

令和七年十一月三十日付

● 山谷 尚 円 氏  
(大仙市太田町)

昭和六十三年四月一日就任

● 照 井 進 氏  
(美郷町金沢西根)

平成四年四月一日就任

● 高 橋 智 子 氏  
(大仙市太田町)

平成十七年十二月一日就任

● 相 馬 義 雄 氏  
(大仙市神宮寺)

平成二十三年十二月一日就任

● 鈴 木 喜 一 氏  
(大仙市太田町)

平成二十七年十二月一日就任

ご尽力いただきまして、ありがとうございます。

## 編集後記

新しい年を迎え、皆様方のお力添えを賜り、二十二回目の発行をすることができました。このことを心より感謝申し上げます。さて、今年は午年。「勢いよく駆ける馬」「馬車馬のごとく」という言葉と「働いて働いて働いて働いて働いてまいます」という言葉が繋がったのは私だけでしょうか。(笑)

更生保護の現場では、一人ひとりが仕事をもちながら対象者に関わっている場合が多いかと思えます。自らの仕事もしつつ更生保護にも携わる、その姿は正に馬車馬のごとくです。対象者と関わる中でのひとつの励ましが大きな力となり、再出発を目指す背中を押しています。

午年の活気にあやかりながら、確かな歩みを続け、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献できる一年となりますよう、本年もよろしく申し上げます。

(編集委員 記)